

公立大学法人和歌山県立医科大学

平成28事業年度の業務実績に関する評価結果

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の平成28事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第28条の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の平成28年度業務実績に関する年度評価を実施した。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものである。

今回の年度評価は、第二期中期目標期間の5年目の評価で、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価した。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用されることで、より一層、教育・研究・臨床それぞれの活動が充実するとともに、法人の業務運営状況に対する県民の理解が深まることを期待する。

平成29年8月

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

1 総 評	1
2 新たな取組	2

第2 項目別評価

1 教育研究等の質の向上	
(1) 教 育	3
(2) 研 究	4
(3) 附属病院	5
(4) 地域貢献	6
(5) 国際交流	6
2 業務運営の改善及び効率化	
(1) 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制 システムの構築等運営体制の改善	6
(2) 人材育成・人事の適正化等	7
(3) 事務等の効率化・合理化	7
3 財務内容の改善	
(1) 自己収入の増加	7
(2) 経費の抑制	8
(3) 資産の運用管理の改善	8
4 自己点検・評価及び情報提供	
(1) 評価の充実	8
(2) 情報公開等の推進	9
5 その他業務運営	
(1) 施設及び設備の整備・活用等	9
(2) 安全管理	9
(3) 基本的人権の尊重	9

第1 全体評価

1 総評

- 和歌山県立医科大学は、和歌山県における医学及び保健看護学に関する教育・研究・臨床の中心として活動することで、医療の発展に大きく貢献している。第二期中期目標期間の5年目にあたる平成28事業年度については、「地域に開かれた大学」、「地域への貢献」を果たすための多様な取組について概ね評価することができる。

特に、教育においては、医師国家試験、看護師国家試験ともに高い合格率を維持しているが、これは優秀な学生を集め、本県における教育・研究・臨床の拠点として高い評価を得るうえで極めて重要な成果であるといえる。

研究においては、日本で初めて膵臓がんに対する樹状細胞ワクチン療法の医師主導治験着手やALSの神経変性メカニズムの研究など多くの先端医学の領域で成果を挙げた。また、臨床研究中核病院の承認を目指し、臨床研究センターの人員体制の整備に取り組んだ。

一方で、人件費の増加等により、独立行政法人化後、初めて経常赤字となった。

今後は、教育・研究・臨床それぞれの活動を萎縮させることなく、収支バランスの取れた、健全な法人運営に取り組む必要がある。

- 平成28年度計画127項目の業務実績を確認したところ、15項目が「年度計画を上回って実施している。」、107項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、5項目については「年度計画を十分には実施していない。」と認められた。これらを総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に進んでいると評価する。
- 特に、以下の取組等について評価する。

【教育】

- ・ 高校の進路指導部長等に対する大学説明会やオープンキャンパスの開催、高校訪問の実施により、教育方針などを精力的に周知した。また、オープンキャンパスの参加者数が大幅に増加した。
- ・ スキルラボに、代表的な疾患についての基本診察手順を学ぶことができるシミュレータを追加整備するなど、臨床技能の研修体制の更なる充実を図った。
- ・ 学生の学習環境の向上を図るため、図書館三葛館を休日に開館した。

【研究】

- ・ 日本で初めて膵臓がんに対する樹状細胞ワクチン療法の医師主導治験に着手するとともに、肝臓がんについて、本学を含む国内4機関の共同研究により、ゲノム診断で肝内転移による再発か多発性かを正確に判断できることを明らかにするなど、様々な研究成果を相次いで発表した。
- ・ 受託研究にかかる収入金額が前年度比で大幅に増加した。

【臨床】

- ・ がん診療に関する診療実績指標が、IMRT実績数を除いてすべて向上した。がん登録も着実に増加しており、がん相談支援センターの実績も大きく伸びた。和歌山県がん診療連携拠点病院として、がん診療体制等の整備・充実を図り、がん対策に総合的、計画的に取り組んだ。
- ・ 厚生労働省が行う救命救急センター充実段階評価において「A」評価（高度救命救急センター中1位/36施設）を受けるなど、質量ともに高いレベルを維持した。

- ・ きわめて高水準の返書率（紹介状に対する返信として照会元の医師に文書を送付した割合）を維持した。
- ・ 診療科の枠を越えて空床を有効に利用するため、共通床の使用ルールを変更するとともに、患者支援センターが、利用調整を積極的に行った結果、共通床利用率が前年度を上回った。
- ・ 医師臨床研修マッチングの成績について、全国上位を維持した。また、和歌山研修ネットワークを通じて、本院と県内の基幹型研修病院との間で、活発に研修医の相互受入を行った。

【運営】

- ・ 教育の内容、研究の成果、診療の実績等について、大学のホームページへの掲載や報道機関への発表等を通じて積極的に情報発信した。
 - ・ 教員以外について、短時間正規職員（看護師・助産師）制度や学内助教の短時間勤務制度を継続して運用し、女性職員の積極的な採用に努めた。
- 一方、以下の点について一層の努力が求められる。

【研究】

- ・ PubMed に収録された論文数、英語原著論文数が増えていない。
- ・ 基礎医学部門に新設する部門の候補について、「がん」「再生医療」「神経に関する領域」の3分野に決定したものの、最終決定には至っていない。

【臨床】

- ・ 紀北分院について、入院・外来とも延べ患者数が減少した。

【運営】

- ・ 教職員の増員等による人件費の増加や医薬材料費の増加等により、独立行政法人化後、初めて経常赤字となった。
- ・ 査定減対策のための勉強会の開催や、注意喚起などの取組がなされているが、依然として査定率が高い。

2 新たな取組

【教育】

- 従来、各診療科2週間でローテーションしていた臨床実習について、内科と外科を組み合わせ、両科の患者を4週間受け持てるように改定し、また、その間の実習内容も両科で重複のないように再編成した。

【研究】

- 研究シーズの発掘、知的財産化へのノウハウ提供、研究をさらに発展させるための公的資金獲得支援、企業等との連携による共同研究の実施に関する情報提供など、相談内容に応じた最適な支援の提案を行うため、「知的財産等に係る研究相談窓口」を設置した。
- みらい医療推進センターが平成25年度から平成27年度までに実施した障害者スポーツ医科学研究拠点としての活動成果が、文部科学省から最高ランクのS評価を受けた。

第2 項目別評価

評定の区分	中期目標・中期計画の達成に向けて、 S・・・特筆すべき進捗状況にある。 A・・・順調に進んでいる。 B・・・概ね順調に進んでいる。 C・・・やや遅れている。 D・・・重大な改善事項がある。
-------	---

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載44事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈医学部、保健看護学部〉

- 医学部、保健看護学部ともに、入学時よりケアマインド、コミュニケーション能力向上のため、継続して多施設で体験実習を行っていることについて評価する。絶えず効果検証を行い質の向上に努めることを期待する。
- 進級試験、卒業試験問題の精度管理を行うとともに、国家試験の合格率との関連を検証し、医師国家試験、看護師国家試験ともに高い合格率を維持したことについて評価する。

〈医学部〉

- 国際学会での発表、英語論文投稿、外国人観光客の増加による国内診療の国際化などを鑑み、TOEFL、TOEICを進級条件とするなど英語教育の充実を図ったことについて評価する。今後の英語教育の更なる充実に期待したい。
- 各科の試験内容が適切であるか、シラバスに準拠しているかについて、学生に評価を行わせ、結果を教員にフィードバックする取組、CBTの問題作成にかかる研修会を開催し、問題作成能力の向上を図る取組など、適正な成績評価を行うために継続して取り組んでいることについて評価する。
- 学生の進級判定・卒業判定の透明性を確保するため、平成27年6月から導入されている進級判定・卒業判定に対する学生からの異議申し立て制度について評価する。

〈保健看護学部〉

- 保健看護学部において、3年次、4年次に、問題解決能力、総合能力を養うため少人数での実習・演習を必修科目として開講していることについて評価する。絶えず効果検証を行い、質の向上に努めることを期待する。
- 保健看護学部と附属病院看護部において、打合せ及び評価会議を行い、効果的な臨地実習が実施できるよう取り組んでいることについて評価する。

〈医学研究科〉

- 大学院博士課程の入学者について、定員を満たしていないものの、ここ3年間増加している

ことについて評価する。

- 大学院のFD研修会の実施回数、参加教員数ともに平成27年度より増加したことについて評価する。

【指摘事項】

〈医学部〉

- アクティブ・ラーニング（課題の発見、解決に向けた主体的・協働的な学び）を積極的に取り入れるなど、個人で学ぶだけでなく集団で学ぶ必要性を学生に理解させる学習機会をより多く設けるよう取り組まれない。
- 1、2年次に留年者が多い。その理由、原因を聞き取り等を通じて把握したうえで、十分な分析を行うとともに、学生の立場に立って勉学に対するモチベーションを高める取組を行うなど、6年間で卒業させるための総合的な対策を講じられたい。

〈医学研究科〉

- 医学研究科の国際学会発表数は4年間減少傾向が続いている。また、論文発表、学会発表の実績も少ない。学会発表数は、論文発表数に繋がるものであり、学会発表の実績の改善に努められたい。

(2) 研究

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）

年度計画の記載14事項中12事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、2事項が「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 英文エディターを活用した英語原著論文の作成支援、インパクト・ファクター（学術研究に関する影響度）の高い学術雑誌への掲載を推進する取組、研究成果に対する統計的なサポートを通して、質の高い論文や学会発表を支援する取組について評価する。
- 質の高い論文を執筆するためには、研究体制を強化し、一定水準の研究が活発に行われる必要がある。特別研究員の配置により研究者の増員を図ったことについて評価する。また、知財コーディネーター、英文エディター、生物統計家を配置し、研究支援体制の充実を図ったことについて評価する。
- 研究意欲を高めるための顕彰制度や研究費の助成など、若手研究者を支援する継続した取組について評価する。
- 臨床研究センターの人員体制を整備し、臨床研究中核病院としての承認を目指す方針について評価する。
- 臨床研究の倫理性、科学的妥当性の審査の質の向上を図るため、倫理審査委員会認定制度による認定IRBの取得を目指し、倫理審査委員会の体制を整備したことについて評価する。

【指摘事項】

- PubMedに収録された論文数、英語原著論文数が増えていない。優れた研究者の育成、発掘など増加に向けた対策を講じられたい。
- 基礎医学部門に新設する部門の候補について、「がん」「再生医療」「神経に関する領域」の3分野に決定したものの、最終決定には至っていない。今後の進展に期待したい。

- 臨床研究中核病院としての承認を得ることにより財政的な負担が増加すると思料されることから、財政的に自立できるよう具体的な工程を示されたい。受託研究にかかる収入金額が大幅に増加しているが、公的外部研究資金（科学研究費等）の獲得についても努められたい。

(3) 附属病院

【評定】 A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載33事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈附属病院本院〉

- 新生児ドクターカーの運用数も年々増加している。総合周産期母子医療センターの役割を果たしていることについて評価する。
- ドクターヘリによる救急患者の受入れにかかる取組について評価する。附属病院本院は本県の最北西に位置することから、これらの取組の更なる充実を期待したい。
- 患者サービスの向上を図るべく、患者満足度調査を行っていること、さらには同種の病院との比較分析を行っていることについて評価する。

なかでも、看護師の説明のわかりやすさなど診察面全般ではいずれの項目でも高くなっていることについて評価する。
- 育児や介護等でフルタイム勤務が困難な職員が働きやすいよう、細かな勤務パターンを制度化していることについて評価する。
- DMATの取組など基幹災害医療センターとしての役割を果たしていることについて評価する。また、職員の訓練・研修を頻回に実施し、その成果を踏まえ絶えず災害時のマニュアルの見直しを行い、危機意識の向上を図っていることについて評価する。

今後も、災害対策本部の指揮能力や情報収集能力の強化のため、本部体制を絶えず見直し、危機管理体制をさらに強化されることを期待する。なお、災害時用備蓄食料を更新する際には、備蓄期間を経過する前に食料を有効活用するよう対処されたい。
- 遠隔医療支援システムによる遠隔外来の実施や講義の配信の取組について評価する。今後も更なる充実を期待したい。
- 認定看護師、専門看護師を目指す地域の医療機関で従事する看護職員に対し、研修会や受入研修を継続して実施していることについて評価する。
- 平成27年度に開設した新設の診療科（形成外科、リウマチ・膠原病科）の外来患者数が増加していることについて評価する。
- 届出抗菌薬の届出率が高いレベルで維持されているなど、感染対策が充実していることについて評価する。

〈紀北分院〉

- 医療安全及び感染対策の研修会を活発に開催するとともに、橋本市民病院、紀和病院と連携した病院ラウンドを年1回実施するなど、医療従事者の医療安全意識の向上を図ったことについて評価する。

【指摘事項】

〈附属病院本院〉

- 本院の新入院患者数、新外来患者数が減少している。要因を分析し対応を検討されたい。
- 患者満足度調査については、トイレや洗面設備等の院内施設全般についての満足度が相対的に低い結果となった。また、診察後の支払いまでの待ち時間については前年度比で満足度が高くなったものの、調査病院の平均値に比べ低い。必要な改善策を講じられたい。

〈紀北分院〉

- 紀北分院について、入院・外来とも延べ患者数が減少しているため、要因を分析し、対策を講じられたい。また、地域医療構想等にかかる今後の展開に併せ、経営のあり方についても検討されたい。

(4) 地域貢献

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(5) 国際交流

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 海外留学に必要な語学力を向上させるための英語授業の実施など、学生の海外派遣を支援する取組について評価する。特に、ハワイ大学に継続して学生を派遣していることについて評価する。国際的に活躍できる医療人を育成するための更なる取組を期待する。
- 継続して海外の大学との学術交流、学生交流を実施していることについて評価する。また、国際交流ハウスの増室など、受入体制の充実を図ったことについて評価する。海外での交流経験は学生にとってプラスの面が大きいことから更なる発展を期待する。
- 平成26年度に協定を締結したミャンマー連邦共和国保健省や平成27年度に協定を締結した韓国の延世大学との交流を推進するとともに、新たな大学との協定締結にも取り組んでいることについて評価する。今後の発展に期待したい。
- 学生の海外派遣への支援など国際化に対応できる人材育成にかかる継続的な取組について評価する。

2 業務運営の改善及び効率化

(1) 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制システムの構築等運営体制の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 託児施設の保育定員及び病児保育定員の増員、延長保育時間の延長等について平成29年度からの実施を決定するなど、ワークライフバランスを実現するための職場環境の改善を図ったことについて評価する。
- 法令遵守の徹底を図るため、定期監査や臨時監査、無通告検査の実施や、研修会の開催など、継続して取り組んでいることについて評価する。

(2) 人材育成・人事の適正化等

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(3) 事務等の効率化・合理化

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 平成26年度から実施している資格取得助成制度の利用促進を図ったことについて評価する。

【指摘事項】

- 独立行政法人化後、初めて経常赤字となったことを踏まえ、今後は医療マネジメント系の研修や資格取得にも一定の助成制度の導入等を検討されたい。

3 財務内容の改善

(1) 自己収入の増加

【評定】 B (概ね順調に進んでいる。)

年度計画の記載7事項中6事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項が「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 病床稼働率の向上を図るため、病床管理委員会を定期的で開催し、病床利用実績を基に各診療科優先使用病床を見直し、実態に即した効率的な病床の振り分けを行った結果、病床稼働率、外来・入院延べ患者数の双方において、前年度を上回るなど、附属病院収入の増収につながったことについて評価する。

【指摘事項】

- 査定減対策のための勉強会の開催や、注意喚起などの取組がなされているが、依然として査定率が高い。早急に有効な対策を講じられたい。
- 科学研究費の交付額が、教員数に比べて少ない。常に研究の現状を正しく把握し、必要な対

策を講じられたい。

特に、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）の研究費の獲得が少ない。文部科学省の科研費、AMEDの研究費などについては、その応募内容と採択率をもとに採択の傾向等を十分に分析するなど、応募件数、採択件数の増加に向け積極的に対策を講じられたい。また、大型の研究費を取得する研究者を積極的に採用するなど、外部からの人材招聘についても検討されたい。

（2）経費の抑制

【評定】C（やや遅れている。）

年度計画の記載4事項中2事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、2事項が「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 教職員の増員等による人件費の増加や医薬材料費の増加等により、独立行政法人化後、初めて経常赤字となった。

臨床、研究は人が財産であり、必要な人材の確保のための増員は理解できるものの、今後は、人事管理、コスト削減にきめ細かな対応を行い、診療活動、研究活動を萎縮させることなく、収支バランスの取れた健全な法人経営となるよう、平成29年度における改善を求めたい。

- 当初予算と決算が大きく乖離していることについて詳細な検証をされたい。中長期的な財政見通しの上で、診療活動、研究活動を萎縮させることなく、次年度以降の予算計画に反映することが望まれる。

（3）資産の運用管理の改善

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 平成27年度と比較し、運用額や運用回数を増やし引合を実施したものの、マイナス金利政策の影響により収益額が減少した。今後、太陽光発電所の設置など一定の収入が安定して確保できる取組を検討されたい。

4 自己点検・評価及び情報提供

（1）評価の充実

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 自己点検・評価の結果を大学のホームページで公表し、継続的に業務改善を図っていることについて評価する。病院機能評価については、今後、(公財)日本医療機能評価機構 3rdG:Ver. 2.0 の取得に向けた取組を期待する。

(2) 情報公開等の推進

【評定】 S (特筆すべき進捗状況にある。)

年度計画の記載 1 事項が「年度計画を上回って実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 国際交流時の式典等での大学紹介や海外留学生向け PR に活用するため、日本語及び英語による大学 PR ビデオを作成するとともに、大学のホームページで公表し広く情報発信したことについて評価する。

5 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(2) 安全管理

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(3) 基本的人権の尊重

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 全職員を対象とした全学人権・同和研修について、受講率の向上に努めた。その結果、平成 28 年度末の受講率が 99.9% となったことについて評価する。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略） ◎印は委員長

氏 名	役 職 等
◎ 辻 省 次	国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授 東京大学大学院医学系研究科分子神経学特任教授
川 渕 孝 一	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療経済学分野教授
坂 本 す が	東京医療保健大学副学長 公益社団法人日本看護協会前会長
瀬 戸 嗣 郎	静岡県立こども病院名誉院長・参与 市立岸和田市民病院顧問
谷 口 友 志	公益財団法人白浜医療福祉財団白浜はまゆう病院院長
中 西 憲 司	兵庫医科大学客員教授 兵庫医科大学前学長

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成29年7月11日開催
- ・第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成29年8月 8日開催

○大学収容定員等（平成28年4月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	600	615
保健看護学部	320	329
医学研究科	196	132
修士課程	28	27
博士課程	168	105
保健看護学研究科	33	34
博士前期課程	24	23
博士後期課程	9	11
助産学専攻科	10	9

○教職員数（平成28年4月1日現在）

総 数（人）	1,672
教員	377
事務職員	130
技術職員	4
現業職員	6
医療技術部門職員	264
看護部門職員	884
研究補助職員	7

（出典）平成28年度和歌山県立医科大学概要